

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	すかいきっず			
○保護者評価実施期間	令和7年12月15日 ～ 令和7年 12月22日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	16名
○従業者評価実施期間	令和7年12月15日 ～ 令和7年 12月 24日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが楽しく通所できる	子どもに合わせた支援を行うように心掛けている。また、子ども一人一人の気持ちに寄り添い、受け止めながら楽しく過ごしている。	一人ひとりの興味や発達段階に合わせた活動を大切にし、遊びや経験を通して自然に学びや成功体験を積み重ねられるよう支援していきます。

2	不穏になった時、自ら気持ちを取り戻せる場所がある	子どもとの信頼関係を築くため、日々の関わりの中で一人ひとりの気持ちに寄り添うことを大切にしています。 子どもの言動を否定せず受け止め、安心して気持ちを表現できるような声掛けや関わりを意識して行っています。	子どもとの信頼関係をより深めるため、一人ひとりの気持ちや思いを丁寧に受け止める関わりを継続するとともに、職員間での情報共有をより充実させていきます。
3	戸外活動を取り入れて狭い空間から広い空間で伸びやかな体験が出来る	個別活動や個々の特性、好みを考慮した過ごし方を提供できる。また、その日の子供に合わせた支援を変更することができる。	周囲の刺激を調整した空間の中で、子ども一人ひとりが自分のペースで気持ちを整えられるよう、配慮し、安心して過ごせる環境づくりを行っています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援学級の児童・支援学校（知的部門・身体部門）の児童の差を工夫するため、集団活動が少なくグループ・個別が多い 他児とのコミュニケーションの取り方に偏りがある。	・課題を進めるにも個々の支援の幅が広く、細かい課題作りに スタッフが悩んでいる。	・少しずつ慣れてくる中で、他児の影響を受け、子どもたちが同じような活動に挑戦する姿が見られるようになってきた。その子の特性を十分に把握する必要がある
2	3事業所間の交流は出来ているが地域の他の児童との交流の場を持つことがあまりできていない。	地域の児童と関わる機会が少ない。公園等で時折、関わることもあるが難しい。状況に慣れていないために長くは続かない	地域の児童館のイベントの参加や地域に出向いていくイベントを検討していく

3	子どもへの個別対応を重視するあまり、集団活動への参加が難しくなる場面がある。	一人ひとりの気持ちに寄り添った支援を大切にしているため、集団活動への参加方法について工夫が必要な場面がある。	日々の支援を振り返る機会を確保し、子ども一人ひとりに応じた関わりが継続して行える体制づくりを進めています。
---	--	--	---